

地域のボランティアと取り組むものづくり教室

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松永, 泰弘, 河村, 翔太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7194

地域のボランティアと取り組むものづくり教室

技術講座 松永泰弘 河村翔太

1. はじめに

今日、日本では少子高齢化、結婚に対する若者の意識の変化、地縁血縁関係の崩壊、個人情報保護法によるプライバシー保護、終身雇用制度の崩壊、雇用減少などの要因が重なり合い、高齢者から若者まで単身者はますます孤立しやすい社会へと急速に移行している。今後もこのような事態が続けば、地域住民間・世代間の交流がなくなり、地域のネットワークによる犯罪の予防機能の低下や、高齢者の孤独死が懸念される。

本実践では、地域ボランティアと取り組むものづくり教室を通じて、高齢者・退職者の経験や能力、技術を継承する場、高齢者と子どもたちが触れ合う機会を提供し、社会における高齢者自身の自己肯定観や、生きがいを見つけだすことができないか、可能性を探る。

また、子どもたちにとっては、ものづくりの技術やつくる楽しさ、科学の面白さを学びながら、日々進化発展する科学技術に対する興味関心を持つことができるか、製作する教材の可能性を検討する。

2. 実践

2-1 由比生涯学習交流館 ものづくり教室

【場所】静岡県由比生涯学習交流館

【対象年齢】小学校2～6年生 24名

【日時】平成22年8月22日（日）

【実施教材】受動歩行模型

由比生涯学習交流館では、子ども夢基金の援助を得て、ものづくり教室を実施した。由比生涯学習交流館では、地域住民をボランティアとして取り込んだ小学生のものづくりサークルが立ち上がっており、地域の高齢者が小学生のものづくりの補助を行っている（図1）。本実践では、学生もボランティアとして参加したが、地域住民のボランティアが多数参加していたため、普段の教室よりも比較的楽に実施することができた。

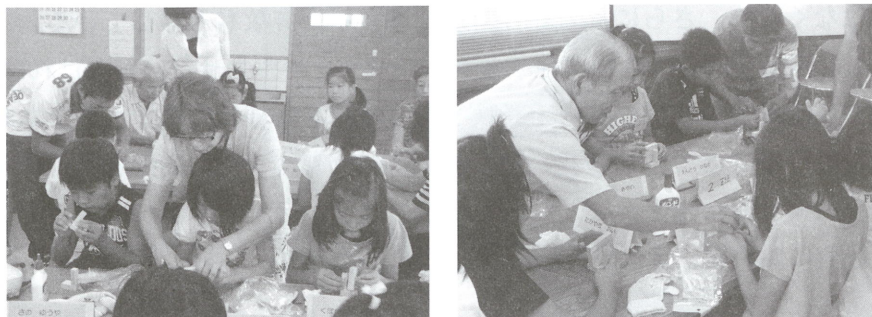


図1 地域のボランティアとものづくりに取り組む様子

また、参加した子どもたちも地域のボランティアの方たちも、とても楽しそうにものづくりに取り組んでいた。今回製作した受動歩行模型に興味を示すボランティアの方が多く、子どもと一緒に模型を作る姿も見られた。子どもと触れ合う機会になるだけでなく、魅力ある教材に出会い、新たな学びを得られたと思われる。

2-2 長田東小学校 東っ子ワークキッズ

【場所】静岡市長田東小学校

【対象年齢】小学校第3学年 75名

【日時】平成22年11月14日（土）

【実施教材】はし

長田東小学校で行われるイベント「東っ子ワークキッズ」にて、はしづくりの実践を行った。この、「東っ子ワークキッズ」は、キャリア教育の一環として毎年行われており、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を支援し、そのために必要な意欲、態度や能力を育てる力を育成する」ことを目標に行っている。学年ごとに体験できるものが違い、ものづくり体験や仕事体験、また、様々な仕事に携わっている人の話を聞くことができる。保護者もボランティアも多数参加し、子どもたちと地域住民とのかかわりの場であり、また、子どもたちが将来の仕事について学んだり体験できる場となっている。

今回の実践では、はしを製作したが、どの子もかんななどの道具に触れるのは初めての経験であり、ずいぶん苦勞しながら製作していた。しかし、完成すると、その苦勞と同じくらいの満足感・達成感を得たと感じる子どもたちが多く見られ、また作りたい、今度はもっときれいに作りたい、等の声を多く聞いた。

また、様々な職業の人たちとかかわれることで、将来こんな仕事をしたい、こんな仕事もあるなんて知らなかった、など、子どもたちの見聞や将来の可能性を広げるという意味でも、とても有意義な活動である。

3. さいごに

現在、地域の連携の薄れは非常に深刻になり、隣近所の人顔も知らないというのは珍しいことではなくなり、さらに、高齢者の独り暮らし世帯数も上昇している。上記のような教室を少しでも多く開き、今後は地域ネットワークを再生させていかなければならない。また、現在の高齢者・退職者の技術・経験・能力は非常に価値のあるものである。それを継承する場を設けることで、今の若い世代の学びとなり、また、高齢者・退職者にとっても新しい人生の楽しみ、生きがいとなる。地域のボランティアが参加できるものづくり教室は、現代社会において、世代間の懸け橋となると考える。